

県高支部ニュース 2008. 4.22. No. 3

兵高教組神戸県立支部 神戸市中央区北長狭通5-2-10 TEL/FAX 078-351-3252
支部ニュース投稿先: 県高支部E-mail: ken_koube@yahoo.co.jp 兵高教組HP: http://www.hyogo-kokyoso.com/

新採用の皆様へ

- ・年度初めの新採研は、やめて欲しかった。まだ慣れない新しい勤務校の授業や分掌の仕事は大事で、しかも不安。そんなときに、授業を自習にしてまで泊付き研修はやめて欲しかった。
- ・「何でこんな、現場と無関係のことを!?!」という新採研の課題が負担。
- ・仕事が忙しい時期に、新採研のレポートが切がよく重なっていた。学校の仕事のほうが大切だとは思ったが、どちらも中途半端になりそうで不安だった。
- ・常勤講師の頃にはなかった「指導」は、自分が未熟者扱いされ、教育実習生のような立場で、生徒からの「励まし」も皮肉に感じた。
- ・「上からの命令は聞け」と押しつけられて、辛いこともあった。

昨年度の新採用の先生方から、上のような話を聞きました。

私たちは、学校現場で大切なことは、教職員の上下関係ではなく、教職員の「共同性・同僚性」だと思います。それを上下関係へと組み替えようとする策動は許せません。

新採研については、勤務している学校の行事等の事情に合わせて、泊付きの研修等を免除するように校長が判断できる部分もありますので、組合の分会員にご相談下さい。

また、現在臨時教職員の立場にある先生方を支援するためにも、組合が実施するアンケートにご協力下さいますよう、お願いします。

臨時教職員の皆様へ

組合は、臨時教職員の月給制・単価引き上げ・年休制度・採用年齢制限撤廃・経験者の正規化、組合加入の臨時教職員の継続雇用、等々を強く要求してきました。

県行革による相次ぐカットの中で、時間講師・介助員・日々雇用職員等の単価切り下げを阻むことができ、また今年度から時間講師の年休制度が実施されることになりました。また、組合加入の臨時教職員については全員の雇用継続が実現しました。

さて、兵高教組では、今年も下記の「採用試験対策講座」を実施します(詳細は別紙『臨時教職員ニュース』第1号で)。

5月18日(日) 基礎講座
13:30 ~ 16:30
ひょうご共済会館
・採用試験Q&A等
・模擬面接 ・賃金と権利
・過去問、面接試験「傾向と対策」パンフ配布

6月1日(日)
小野田教授による講座
13:30 ~ 17:00
神戸勤労会館
・「いちゃもん学」で有名な教授のロールプレイング講座で、親と教師の共同を学び、ついでに面接にも強くなる。

6月下旬~7月
面接練習講座
(県内地区別に開催)
・集団面接対策講座
・グループに分かれ、みっちり練習

つきましては、ふたつのアンケート(1:採用試験対策について、2:臨時教職員の待遇について)にご協力下さいますよう、お願いします。

『北区の教育を守る会』発足

「鈴蘭台高校と鈴蘭台西高校の教育を守り発展させる会」からの Step Up

2008/04/19

最後のピラ配布(07年2月12日(土)鈴蘭台駅前)以来1年ぶりの役員会のため、鈴蘭台を訪れました。4年間にわたってほぼ毎週一緒に北区の各地でピラ配りや署名活動をしてきた父母の方たちとの久しぶりの再会でした。

今回の鈴蘭台訪問は、「北区の教育を守る会」発足に向けて、「鈴蘭台高校と鈴蘭台西高校の教育を守り発展させる会」の総括と、今後の問題点を学習する目的です。

私たちは「守り発展させる会」の最後のホームページ上で、次の声明を出しています。

『県教育委員会の長期構想検討委員会は「高校教育改革」第二次実施計画に向けての中間報告を出しました。そして、その中で、学区の拡大が検討されていることが、明らかになりました。現在、全県で16ある学区を6学区とか7学区とかにするなどという重大なことが、またも地域住民不在のまま検討されています。それだけでなく学区が広く、しかも普通科公立高校に行きにくい神戸第二学区です。鈴蘭台高校と鈴蘭台西高校の統廃合の上、さらに学区が拡大されれば、さらなる遠距離通学と、それにとまなう経済的負担が余儀なくさせられてしまいます。今、声を上げなければ、北区の教育、そして子どもたちの将来は大変なものになります。』(2007年02月)

そして今、その「県高校教育改革第二次実施計画」が公表され、その中で、「今後5年間は現在の学区を守る」とし、また、当初は10~15校を発展的統合(統廃合)すると言っていたにもかかわらず、発展的統合(統廃合)も5年間は行わないとも述べています。少なくとも5年間は学区統合、高校統廃合を先延ばしすることができました。

「複数志願制」の導入を理由にすれば、第1学区と第2学区の統合など簡単にできると県は当初考えていたのでしょうか。複数志願制では「選べる学校」が学区内に多数必要だと県は言ってきたからです。しかし今回、高校数の少ない第1,2学区に複数志願制を個別に導入するだけで、学区統合はできませんでした。

私たちは、第2学区(北区)で、矛盾だらけの「鈴高・鈴西の統廃合」に対する反対を一貫して訴えてきました。鈴高・鈴西の統合そのものは実施されてしまいましたが、4年間にわたる私たちの運動が学区拡大を食い止めたとの評価が寄せられています。

役員会に集まった私たちは、5年後の学区統合の動きを睨みつつ、北区の住民や父母・子どもたちの要望が守られるよう、「鈴蘭台高校と鈴蘭台西高校の教育を守り発展させる会」の運動に学んで、「北区の教育を守る会」の運動を始めようと決意しました。

1. 単独選抜と複数志願制選抜との違いのよくわかるピラを作り5月中に第1回のピラ配りをする。
2. 中学校区ごとの説明会を県教委に要求する。

以上の2点を当面の目標に決定します。皆様のご協力をお願いします。

書評

こんなモノ食えるか!? ~「食」の安全に関する101問101答~

内田正幸著 講談社文庫 2003年1月刊、¥400
(文責: meiro)

日本の食糧事情がどんどん悪化する(食糧自給率がどんどん下がっている)中、日本人は、食料の多くを輸入に頼らざるを得ない状態に陥っている。

この本の背景には、「食はどうなっているのか?」という不安(食べることによって健康が蝕まれているのではないか)がある。その一方で、健康食品としてマスコミでまことしやかに宣伝された食品が、街のスーパーであつという間に売り切れてしまうという、消費者の主体性や科学的基礎力の欠如による騙されやすさもまた書かれている。

食品の添加物や残留農薬等に関する許容水準は各国でまちまちである。だからたとえば、アメリカ産の食品が日本では流通できないということが起こり、アメリカは日本に「基準を緩和せよ」と圧力をかけ、そして日本政府はそれに従う。そんなことが、当たり前のようになっている。そしてアメリカ企業が日本に手を伸ばし、日本の企業との間に、国民の健康などそっちのけの競争が繰り広げられる。

また一方で、日本は意図的に自給率を下げた(グローバル化の中で、自国農業に対する保護政策を弱めた)から、それまではあまり問題にならなかったポストハーベスト問題(船による長距離輸送に耐えるために収穫後に浴びせる農薬やワックスの残留問題等)や、他国の安全基準の相違、また営利目的の企業の安全度外視の実態等の問題が浮上した。

自給率を下げ食の門戸を開くということは、政府が国民の食生活(健康)に関して責任を放棄する(*)ということだったのだ。食や健康を謳う国内企業も、その流れの中で営利優先に流れ、雪印問題が起き、芋づる式とも言うように、食に関する犯罪が次々に発覚している。(*)「健康増進法」で、健康を国民それぞれの「自己責任」とした。

食は、市場化した。しかし消費者は、市場化した食品の膨大な羅列の中で、何を選択すればいいのか、何の手がかりもない。発ガン物質や環境ホルモンや毒物が、消費者にとっては、無差別に混入されているに等しい状況なのだ。

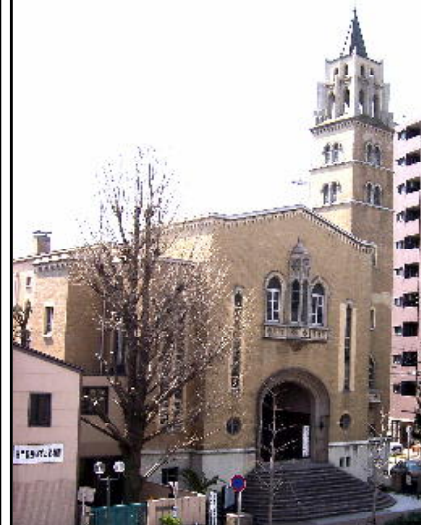
私たちは、憲法を守り、平和を子どもたちに受け渡そうとして努力している。その一方で、私たちの身体そのものが汚染され、その汚染を子どもたちに受け渡そうとしているのだということは、十分考えるべき、「愕然とする事実」であるのではないか。

.....以下、本文から引用.....
『おコメは1年に1回しか実りません。牛は牛肉になるまで2~3年はかかります。豚も鶏も同じ。魚介類も例外ではありません。そして肉牛は全重量の半分ほどしか肉になりません。みんなが食べられるほど魚沼産のコシヒカリもありません。そういうことを私たちはどれほど知り、関心を持っているのでしょうか。そして、世界中から食料を買い漁ることすなわち、「危険をも輸入している」と認識しなくてははいけません。その一方で、過度なまでの健康ブームにダイエットです。何かがおかしい、と感じませんか?』(p5-6)



神戸の歴史を歩いてたしかめよう!

第2回 日本基督教団神戸教会

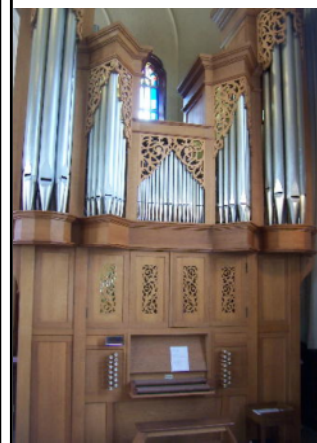
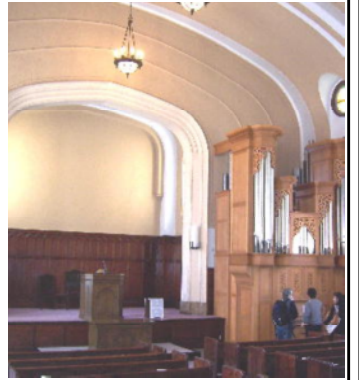


県庁の南西の角のに位置する神戸教会は、1873年に創立され、日本でも最古の教会の一つで、いわゆるプロテスタント(新教)の教会です。

現在の建物は、1932年に建設され、前回紹介のムスリムモスクとともに、建物が強固な作りであったのもあるでしょうが、空襲で、周囲が破壊炎上するなか、表面が黒く焦げたものの、破壊を免れ現在に至っています(左上写真)。

なお、教会の正面階段の右下には、空襲で破壊された路面電車の線路の一部が展示されています。

内部は白亜のアーチ状の天井で、礼拝の時に神父が読む聖書を壇上の演題に備えつけたままになっていました。右の写真ではわかりにくいですが、聖書は大きく金色で装飾されていました。また、2階もあり大勢の方が礼拝に参加できるように作られています。(写真右下)



礼拝時に着席する長いすは木製で、戦時中には取り払われ薪として使われたそうです。現在のはその当時に近いものを戦後に復元して使用しています。

左下の写真はパイプオルガン。このオルガンは、近年に設置されたものです。この見学をさせていただいた日には、このオルガンの背後に回って内部も見せていただきました。その構造を言葉で説明するのは困難なので割愛しますが、一見の価値はあります。(TM)



日本基督教団神戸教会は 中央区花隈町9-16 です

4~5月の予定

- 4月 23日 ~ 年度当初の一斉分会会議
- 26日(土) ILO・ユネスコ調査団来日歓迎西日本集会
- 13:30 ~ 大阪社会福祉指導センター
- 5月 1日(木) 第79回メーデー 10:00 ~ 東遊園地
- 3日(土) 憲法集会 13:30 ~ 松方ホール
- 18日(日) 第1回 臨時教職員のつどい 13:30 ~ ひょうご共済会館
- 25日(金) 憲法集会 13:30 ~ 新長田勤労市民
- 31日(土) 兵高教組第92回定期大会 10:00 ~ 神戸市勤労会館